

5ZA-6 IT 導入による鳥取県西部地震の復興対策

川端親雄

岡山大学環境理工学部

1. はじめに

10月6日午後1時30分、鳥取県西部地域を突然襲ったマグニチュード7.3、震度6の大地震は阪神大震災級であった¹⁾。物理学のテキストに掲載されている寺田寅彦の「災害は忘れた頃にやってくる」まさにそのとおりであった。過疎化が進む高齢者の多い山陰のこの平凡な地域はその時、大混乱になった。鉄道、道路そして通信手段が全く断絶された²⁾。幸いにして地震規模が大きかったが活断層やその周辺の地層帯の状態から生命にかかわる災害にはならなかったが多くの怪我人や家屋、建物等の被害は甚大であった³⁾。その後新聞、テレビの報道は余震や被害並びに復興状況について連日続いている。全国には災害地との関係者達が散在し災害状態やその後の復興状況を正確にして素早く情報を知りたい。また全国各地から現地の人々に「元気を出して頑張ろう」と勇気づける言葉・メッセージを送りたい。しかしながら震災時には現地の情報が充分得られなくて多くの関係者は心を痛めた。21世紀はIT時代と言われているが小子高齢化が進むこの鳥取県西部地震地域を情報格差（デジタル・デバイド）のない高齢者が喜んで住めてまた若者が魅力を持って生活が出来る「新生日本の文化と環境」づくりをしたい。わが国の国家プロジェクトとして動き出した「IT基本戦略」がそのために役立ってないものか、いや役立てたい著者の願望が今回の提言になった。

2. 高速情報通信網の整備

最近わが国の諸都市では光ファイバーの敷設が計画されている。都会から離れた山間部や僻地に積極的に高速情報通信網の環境づくりに取り組んでいる。距離の制約を受ける地方が「高度情報化モデル実験」に参加して「教育のIT化」に努力している⁴⁾。情報格差を無くすために県独自で本格的な「IT」を地方産業活性化の決め手として企画・実施している⁵⁾。著者の具体的な提言は鳥取県西部地震地域に光ファイバー等を敷設して「高速情報通信網」を構築する事である。この地域は過疎化つまり小子高齢化が急速に進んでいる。地理的に見て中国山脈から流れる日野川あり、中国地方では最高峰の伯耆大山がある。平野部には中規模の商業都市・米子市が広がりまた山陰地方では比較的便利な空港を持っている。さらに日本海沿岸に西日本有数の漁港基地、境港がある。鳥取県西部地震地域一帯に「広域情報通信ネットワークシステム」を整備する事によって介護、防災、教育、生涯学習、図書館利用等での活用が可能になる。これらは市役所、町村役場、小、中、高校、公民館、消防署、診療所等の地域圏内の殆どの公共施設に幹線の光ファイバーケーブルを敷設する。その結果行政事務の迅速化、住民サービスの向上等が図られて、遠隔地での住民の健康管理や、気象、河川情報の収集と住民への広報、学校間交流等に役立てる事が可能になる。さらに各家庭への支線ケーブルも敷設する。これらの公共施設に光通信網が構築され広域的な情報の共有・連携ができるインフラ（情報通信基盤）を整備する事によって高速・大容量の国際化にも対応した「広域インターネット環境」が創出できる。

Recovery of Western Tottori Prefecture Earthquake with Use of Information Technology

Chikao Kawabata, Faculty of Science and Technology, Okayama University,

3-1-1, Tsushima, Okayama city 700-8530, Japan

3. 地域 IT 化と震災復興

鳥取県西部地震地域の「災害の復興」が現在、重要な課題である。この地域は「中国山脈」、「日本海」など山あり海ありと自然環境に恵まれた、また歴史の積み重ねの伝統文化が保存されている。この地域に「IT」を積極的に円滑に取り入れる事によって地震の「災い」を「福」に転じ”若者に魅力があり高齢者に優しい地域に生まれる変わる”事が可能ではなかろうか。わが国は今年から5年計画で「IT 基本戦略」として大きな目標を掲げている。家屋、交通手段等の地震災害復興と同時に「高速情報通信網」を敷設して IT 化を進め、活用する事が必要である。鳥取県西部地震地域は日本海沿岸では優れた漁港があり例えば「松葉ガニ」で知られ、そこで水揚げされる海産物等は全国に搬送されている。農産物等の中で果物は有名な「20世紀梨」がある。全国的に知られている「皆生温泉」やスキーや登山で有名な標高1700メートル超級の「伯耆大山」がある。米子市には近くに滑走路2000メートル級の「空港」もある。さらに自然が豊かで”水と空気”が美味しい地域でもある。”地方”から「アップील」の情報発信が可能である。大地震は家屋や交通手段等の災害以外にも「人心」にダメージを与えたが現在は地域住民達は明るくなってお互いに励まし合い協調し再建に努力している。この震災復興の建設に並行して「新世紀」の進んだ IT 環境の構築が若者達に情報格差を感じさせなくなる。IT の「ソフト関連企業」を広大な伯耆大山自然平野に起こせば「季節的な雇用」の創生が可能ではないだろうか。この地域から農閑期には京阪神地帯へ”出稼ぎ”に行っていたが”都会”に負けない「IT 環境を構築」すれば逆に都会から若者達がやって来る。食べ物が美味しくて人情豊かで住み易く、冬にはスキーが出来るし夏は登山やゴルフを満喫できる。直ぐ近くには温泉がある。また汚染されない日本海沿岸で水泳ができる。このような生活事情からこの地域の「IT 環境」構築により季節的ではあるが都会から「知的労働者」が集まることは夢でなく可能ではなかろうか。生まれ育った若者達は希望を持って郷土の発展に尽くすのではなかろうか。鳥取県民はわが国の「IT 基本戦略の路線に沿ったモデル事業」として受け皿を工夫して欲しい。21世紀は労働人口の移動は都会と地方が相互に交流し合いダイナミックな流動が予想される。震災復興には「情報基盤整備」が急務である。

4. おわりに

鳥取県西部地震地域の復興はこれから長い道のりではあるが今一步一步再建の槌音があちらこちらで響いている。この地域の震災の再建は併せて「わが国の IT 基本戦略」を進める「モデル事業」となることが出来れば意義深い。IT 化時代の到来に向け「国、県、市、町村」一体となって住民密着型に対応した整備がされなければならない。こうして構築された21世紀初めの「高度情報通信(IT) 社会」は高齢者、若者、そして身体障害者にとっても、また都会と田舎の何処から何時でも自由に相互に情報交換ができこの地域は「新生日本の誕生」となりわが国の前途は明るい。小子高齢化時代の全国各地の新しい”ライフスタイル”として IT 化が有効なものとなる先駆けの「事例」として期待される。

参考文献

- 1) 町報”こうふ”(鳥取県江府町役場総務課)、No.355, 2000年10月.
- 2) 県政”とっとりだより”(鳥取県庁総務部広報課), No.488, 2000年12月号.
- 3) ”土と基礎”49-1[516](地盤工学会・鳥取県西部地震災害緊急調査団),平成13年1月号.
- 4) 「広がれ!のびのびネットワーク」第26回日本教育工学研究協議会全国大会,高知県,2000年10月.
- 5) 岡山”情報ハイウェイ(地域IT戦略)”(岡山県企画振興部情報政策課),平成12年12月.